

ほおぼる幸せ。富山米



推進目標「元気な富山米ブランド」の確立に向けて

- | | | |
|----------------|---|--------------------------------|
| 1.高品質・良食味な米づくり | ▶ | ●うるち玄米1等比率 90%以上 |
| 2.低コストな米づくり | ▶ | ●水稻直播栽培面積 2,000ha |
| 3.「安全・安心」な米づくり | ▶ | ●「とやまGAP」の実施及び
生産履歴記帳率 100% |

平成25年1月

「高品質・良食味な米づくり」のための重点技術対策

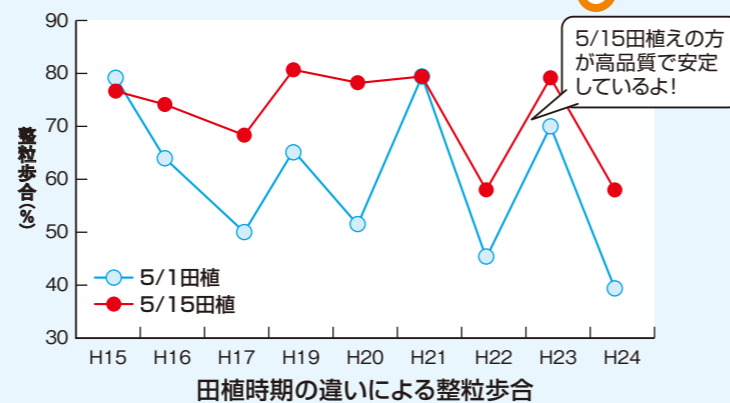
1 元気な土づくり

- ① 地力の低いほ場を中心に堆肥等有機物の積極的施用
- ② 珪酸質資材等土づくり資材の施用による不足養分の補給
- ③ 積極的な深耕による作土深15cm以上の確保



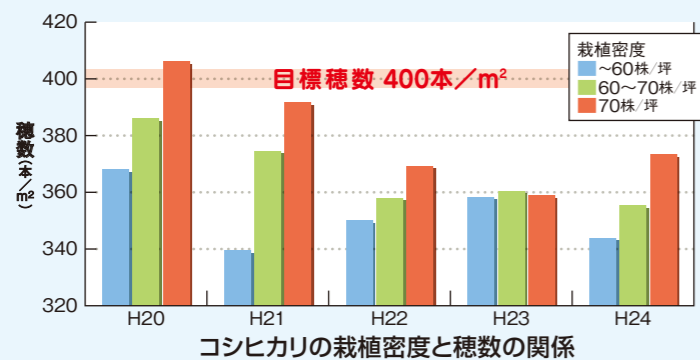
2 高温登熟の回避

- ① 5月15日を中心とした田植え(コシヒカリ)を徹底し、高温登熟による品質低下を防止
- ② 田植えに合わせた計画的な浸種・播種・育苗作業で老化苗の回避
- ③ 直播栽培の拡大



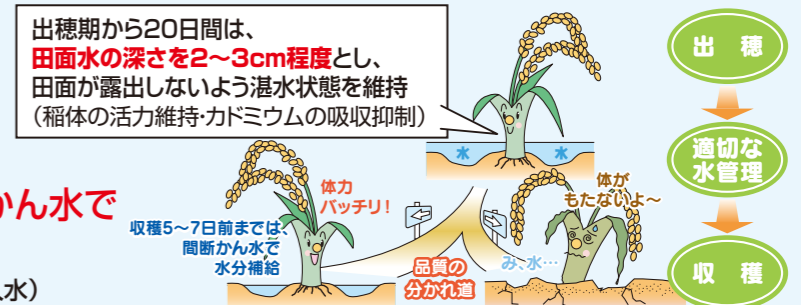
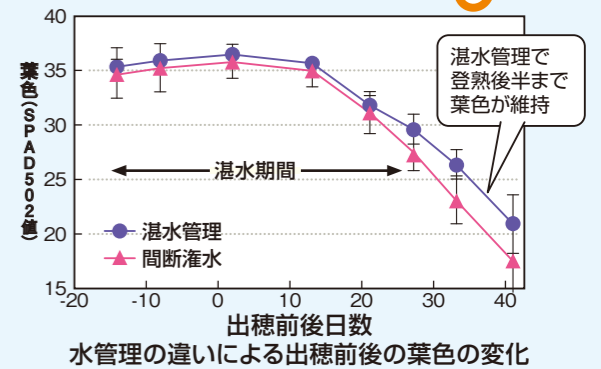
3 適正生育量への誘導

- ① 土壌条件に応じた適正な基肥施用
- ② 栽植密度70株/3.3m²、植付深さ3cmでの確実な植え付けによる適正穂数の確保
- ③ 田植え1か月後頃を目安に中干しを実施
- ④ 中干し後の間断かん水の徹底(乾きすぎに注意)
- ⑤ 生育・気象に応じた穂肥施用1回目は慎重に施用し、過剰な籾数を防止



4 稲体の活力維持

- ① 気象・土壌・生育に応じた穂肥施用
 - ・2回目は確実に施用し、登熟期間の稲体活力を維持
 - ・穂揃期の葉色を4.2~4.5(砂壤土では4.5)に誘導
 - ・肥効調節型基肥でも、出穂7日前に葉色3.8(砂壤土では4.0)以下の場合、窒素成分で0.7~1.0kg/10a施用
- ② 登熟期間の適切な水管理
 - ・出穂期から20日間は、**湛水管理を徹底**
 - ・収穫5~7日前までは、**間断かん水で適切な土壌水分を確保**(特にフェーンが予想される場合は事前に入水)



5 適期刈取りで胴割米の発生防止

- 通常年、積算温度1,000~1,050℃、籾黄化率85~90%での適期刈取



6 適切な乾燥調製

- ① 玄米水分14.5~15.0%の徹底
- ② ふるい目1.9ミリによる選別の徹底
- ③ カントリーエレベータ等の基幹施設利用による高品質・均質化
- ④ 施設や設備の点検・整備による異品種・異物混入の防止



品種の作付け方針

作期の分散による高品質・安定供給の推進
 本県の主力品種「コシヒカリ」を活かすためにも、「コシヒカリ」偏重の是正を!

機械や施設の能力に応じた作付け誘導を図る

- 高温登熟に強い「てんたかく」「てんこもり」の積極的な生産拡大

品種	田植日				成熟期				
	5/2	5/7	5/11	5/13	8/30	9/14	9/17	9/18	9/21
てんたかく		○	—	—	—	—	—	●	
コシヒカリ				○	—	—	—	—	●
てんこもり			○	—	—	—	—	—	●

特に「てんこもり」の田植時期は、「コシヒカリ」との刈取の競合を考慮して決める。

- 「コシヒカリ」の直播栽培の拡大
 - ・ 移植の「コシヒカリ」より、収穫時期が遅くなり、作期の拡大につながる。
 - ・ 育苗管理にかかる労働時間の短縮が図られる。



安全・安心な米づくり

- 今後も選ばれる富山米の産地をめざして、富山適正農業規範に基づく“とやまのGAP”^{ギャップ}に取り組みましょう。

GAP[ギャップ (Good Agricultural Practice)]とは

直訳すると「良い農業の実践」となり、未来永劫、持続的な農業生産活動を行うために必要な取組のことです。

生産者の皆さんは、この規範を道しるべとして、「安全な農作物の生産」や「環境の保全」、「農業者の安全確保」に配慮した改善を実践し、持続的な農業をめざしましょう。

「とやまGAP自己点検シート」などを活用して、今のうちに「不適切な農業行為(BAP)^{バップ}」とみなされるところを改善しましょう

詳しくは県HPをご覧ください。

